

令和3年度

きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（和歌山市会場）まとめ

日時：令和3年11月29日（月）13:30～16:30 参加者：118名

場所：和歌山市北コミュニティセンター

テーマ：「コミュニティ・スクールから始まる学校づくり、地域づくり、人づくり」～地域の子供は、地域で育てる～

実践発表「地域とともにある学校をめざして～小規模特認校の導入～」

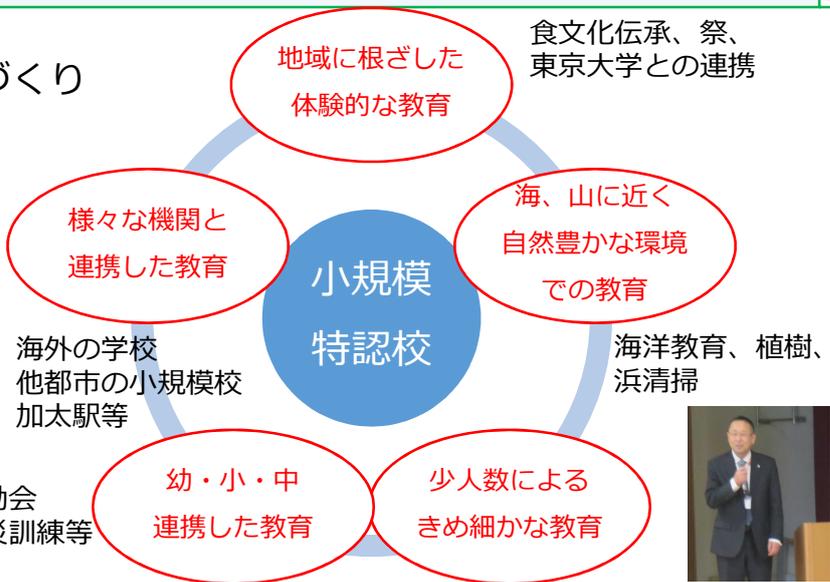
和歌山市立加太中学校 校長 神崎 信彦 氏

加太中学校区における
地域とともにある学校づくり

小規模特認校制度が目的ではない。
これまでの活動を大切にしながら、この制度を核に地域づくりにつなげる。



合同運動会
合同防災訓練等



実践発表「社会教育指導員によってつながれた学校と地域」

紀の川市立田中小学校 校長 宮本 美保 氏

田中小学校における
共有と協働の実践例

課題の共有
(問題提起)

学校運営協議会

- ・コロナ禍における分散登下校で通学路の危険性（狭さ）再確認
- ・登下校見守り団体の整備

社会教育指導員
(コーディネーター) の存在

パートナーシップ



協働の整理
(既存団体の
つなぎ合い)

地域学校協働活動

- たなかっこみまもり隊
- ・ボランティア募集
- ・紀の川市広報の活用
- 公民館活動との協働

**ラウンド1
ブースA
伊藤 松枝 氏**

学校は未来のコミュニティ
～私、失敗しますが
それが何か？～

～内容～

①24年前の学校と地域の風

読み聞かせボランティアとして学校に入った経験
世の中の声

「ボランティアが学校に入ってくるなんて！」

→「学校」という敷居の高さと大きな壁

②「学校」って誰のもの？

学校は「公共財」教育は「贈与」

→子どもを育てる学校から、子どもが育つ学校へ

③大人の学び直し

子どもは、大人の言う通りにはしない。大人のするとおりにする。多様な人々とのかかわりが、子どもたちの質を高める。



～交流では～

- 学校という場所でこんなことができたなら、どうだろう？
 - 大人と子どもの学び合い
 - 子どもたちによる（地域の人々への）認知予防サロン
 - 子どもたちと赤ちゃんの育児交流
 - 図書館カフェで井戸端会議
- 学校という場所が地域の共有の場だったらどんなことが可能になるのか？
 - 学校が、地域の図書館に。学校が地域の公民館に。
 - 学校が地域の学びの場に。
 - 子どもたちや地域の人々が、誰かの役に立つことを感じる。

**ラウンド1
ブースB
上田 さとみ 氏**

家庭・学校によりそう家庭教育支援
～地域で見守り いつでも・
どこでも・いつまでも～

～内容～

①湯浅町訪問型家庭教育支援チーム
「とらいあんぐる」の紹介映像



②今なぜ家庭教育支援？

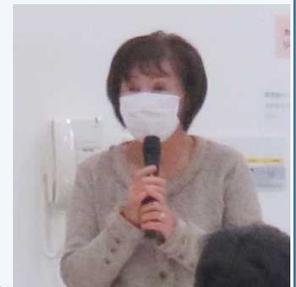
地域・家庭・学校の変容による家庭教育力の低下による
家庭の孤立化

子ども・子育て支援（厚生労働省）→親・子ども支援

家庭教育支援（文部科学省）→親支援

※キーポイント

「福祉」と「教育」の垣根を乗り越える！



全戸
家庭訪問

講座開催

3種類の
情報誌配布

～交流では～

- ・県内全市町村にこのような取組があるのか。
- ・家庭教育支援チームが15年通い続けることで、定職にありつけたエピソードに感動。
- ・家庭教育支援という枠にとらわれすぎず、地域全体で子育てに関わることが重要。
- ・コミュニティ・スクールにおける家庭教育の位置づけをどうしていくか。



ラウンド1
ブースC
上羽 寛 氏

大きな可能性を秘めた
子供・若者を地域と共に育てる
～くちくまの・かみとんだの大家族～

～内容～

①子どもの居場所づくり事業「寺子屋教室」

学校長の願い：落ち着いて丁寧に字を書く時間が欲しい

公民館の願い：平日の昼間に子供の教育を手助けしたい



- ・「ただいま」と公民館に帰ってくる児童。
- ・脈々と受け継がれる、上級生の教え。
- ・迎えにくる保護者の交流の場

②親子の居場所づくり事業について「おうまのひろば」

- ・未就園児の子供と保護者の居場所。
- ・行けば開いている、誰かいる、という安心感。
- ・子育て相談は、自分（相談者）のタイミングで。

いずれも10年以上続く、公民館名物メニューに。

今後は、関わった保護者が支援する側へ。

➡ 令和2年度文部科学大臣表彰受賞。



～交流では～

- ・寺子屋というネーミングにも取組にも感動した。
- ・みんなで育てようする、公民館長の心構えが素敵。
- ・一度視察に行かせて欲しい。
- ・公民館自体の館がない自治体もある中で、公民館が主体となって子供の教育に関わっていることが素晴らしい。

**ラウンド1
ブースD
岡本 公博 氏**

「共育コミュニティのこれまで」と
「これからのCS」
～コーディネーターの存在が大きな鍵～

～内容～

①共育コミュニティ…学校と地域が連携して大人も子供も
共に育ち育てあうための仕組み

弱み：地域と学校の双方向コミュニケーション不足

肝心なのはコーディネーターの存在

共育コミュニティの進化



②コミュニティ・スクールとは

・学校運営協議会を設置した学校

⇒共育コミュニティだけでは実現できなかった、学
校・家庭・地域が抱えている課題を共有し、話し合
う場ができた。

・「地域からの支援」から「地域とともに歩む」学校づ
くり

③コミュニティ・スクール導入のメリット

・組織的・継続的な体制の構築＝持続可能性

・当事者意識・役割分担＝社会総がかり

・目標・ビジョンを共有した協働活動



～交流では～

・コーディネーター、学校運営協議会委員の人選が難し
い。必要性は十分承知しているが、、、

⇒コーディネーターに適している方は、地域をよく知る人、
人脈がある人、学校をよく理解している人。そんな人は
なかなかいないが、自治会長を頼りに相談してみてもど
うか。学校運営協議会委員も人選1つで大きく変わる。

**ラウンド2
ブースA
大浦 俊一 氏**

地域の活性化は子供と共に
～子供は地域の宝！
地域ぐるみで子供を育てる～

～内容～

- ①妙寺公民館について
かつらぎ町… 9 公民館 1 分館
地域内に妙寺小学校、妙寺中学校、紀北農芸高校
- ②子供とのふれあい事業
公民館見学、JR清掃、ニュースポーツ大会、
げんきっ子フェスタ、通学合宿

令和2年度は各事業が中止に



- ③「まちづくり」に向けての一步
「大和街道 竹灯籠の夜」をきっかけに、地域と学校の
つながりを再構築

～交流では～

- ・公民館とコミュニティセンターの違いについて
- ・公民館活動とコミュニティ・スクールをどのように
繋げていくか。
- ・まちづくりプロジェクトチーム（行政）、学校、地域
との連携・協働
- ・公民館機能がない地域では、
どのようにコミュニティ・
スクールを機能化させていくか。



ラウンド2 ブースB 大谷 裕美子 氏

コミュニティ・スクール
こんなこともできるよ 実践例が満載
CSはみんなちがってみんないい！！
～しかけ・きっかけ・こえかけ～

～内容～

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と
地域学校協働活動の一体的推進のために
コミュニティ・スクールは「Go⇒Let's」
ポイントは熟議！

共有！（課題、目標、アクション、成功体験）

②キーワードは「知る！」
子供を真ん中に、大人（学校・
地域）がチームになること。

③地域学校協働活動推進員（コー
ディネーター）は大事！
学校と地域をつなげる役割

④目的は導入ではない。目の前の子供の課題を学校と地域
が共有して、そこにそれぞれの思いも入れながら、取り
組んでいくことが、地域づくりにつながる。

⑤学校運営協議会で、部会を設置して活動につなげるのも
1つの手法。地域も教職員も同じ土俵で。



～交流では～

- ・コミュニティ・スクールを自転車で表された図が非常に分かりやすい。みんなと一緒に頑張って取り組んでいかないと進まないということがよくわかる！
- ・学校運営協議会の熟議を白熱したものにするためには、教職員が出席したり、生徒会代表が入ったり等、工夫が必要。

ラウンド2 ブースC 下田 喜久恵 氏

それぞれの実情に応じた
「学校運営協議会の活性化」
～コミュニティ・スクールを
一歩前進させるために必要なこと～

～内容～

①「協働」とは

(単に協力して働くことではなく)

同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

②学校改革・地域改革

「社会が変われば、求められる人材像も変わり、学校の在り方も変わっていかねばなりません。」

③学校運営協議会活性化のヒント

- ・学校と地域の課題について出し合う
- ・課題解決のためにそれぞれの立場でできることを話し合う
- ・次回の学校運営協議会で具体化する
- ・実際に取り組む



～交流では～

- ・学校運営協議会で大事なことは
「学校」と「地域」が互いの思いや事情を理解し合うこと！
- ・学校運営協議会活性化のために
「ものすごく」おすすめ
◆ホワイトボードの活用 ◆役員会の開催 ◆目標の提示
「重要な」おすすめ
◆CSについて基本的な仕組みを委員が知っておくこと
「非常に重要なこと」
◆守秘義務（委員は特別職の地方公務員）

ラウンド2 ブースD 森博司氏

共育コミュニティから
コミュニティ・スクールへ
～CSは人づくり！！ 学校＝地域～



～内容～

①串本町の経過

平成20年度からスタート。

統合が進んだ地域を中心に、学校と地域の繋がりを模索。徐々に町内全域へと広がった共育コミュニティが、現在コミュニティ・スクールの土台になっている。

②コミュニティ・スクールは人づくり

和歌山県がめざす子供像の実現は、学校教育だけでなく、社会教育活動からの視点も必要。子供だけでなく、教職員・保護者・地域住民も共に育っていく必要がある。

「大人も子供も共に育つ」という目標を決して忘れてはいけない。

③まとめ

コミュニティ・スクールの形は千差万別。それぞれの学校、地域で「人づくり」を基本にして取り組んで欲しい。必ず和歌山県のコミスクは進んでいく。

～交流では～

- ・森博司さんから会場へ逆質問

「地域の方が5回学校へ来るよりも、子供が地域へ出る方が成果があると考えている。大規模校ではどうしているのか？」

- ・県立高校の参加者から

「行政や団体と連携しながら、まだ学校主体で出番を作っている状況。だが、高校生は地域にでると「戦力」になることを実感している。

講評

藤田 直子氏

「共有」：学校運営協議会が学校、家庭、地域をつなぐパイプ役となり、それぞれの思い、学校（校長）の思いを共にする。

「協働」：共有内容を自分事と捉え、主体的に考えて実現する。学校運営協議会委員は「OKではなくLet'sの精神で」（鳥取県南部町福田教育長の講演より）

「共有」したことを「協働」して実現していく。その道筋でできる工夫として、「活動部会の設定」「共育コミュニティとの両輪の動きを作る」等がある。

地域で育ち、地域を担っていく子供たちと若者世代。貸し借りではない必然性のある取組として、①地域のつながりを作るのが難しい、ある中学校における生徒による地域貢献、②那賀高等学校運営協議会発信によるメタ認知をキーワードにした生徒のパネルディスカッションを紹介した。

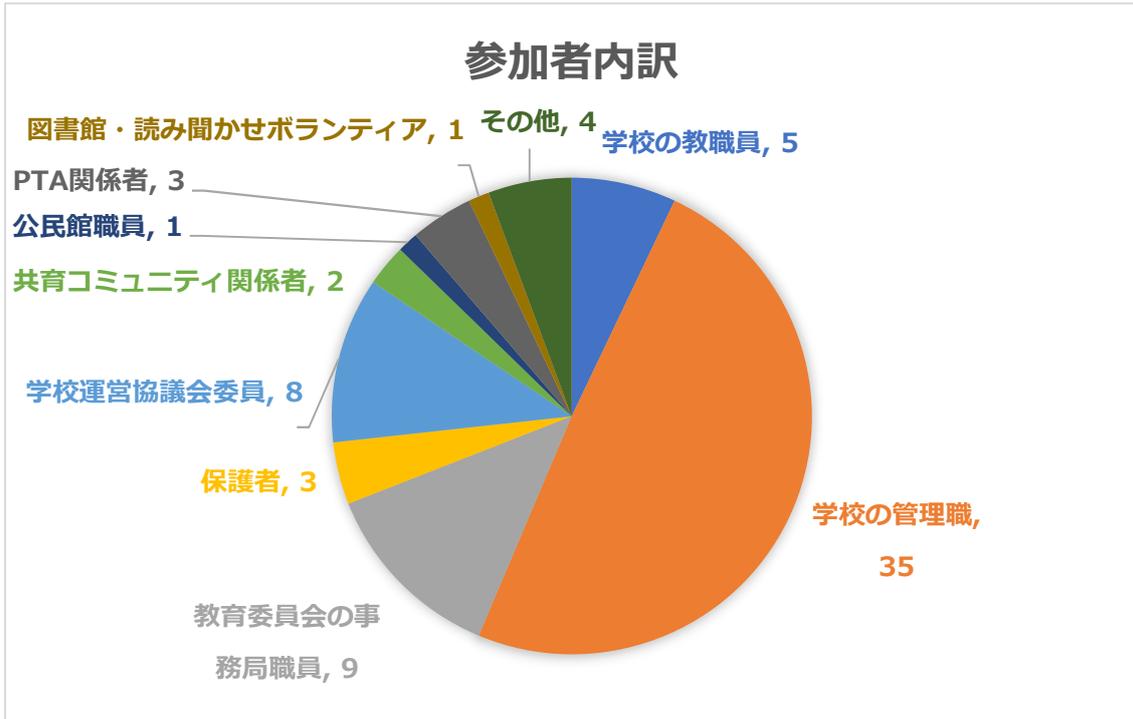
これからも「共有」「協働」を合言葉に、可能性を広げ、実現する動きを作っていてもらいたい。



令和3年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会

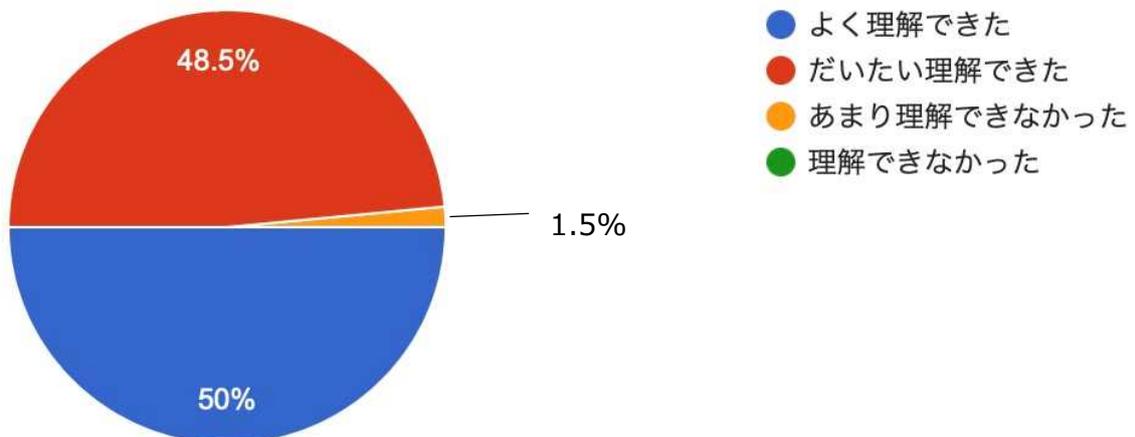
(和歌山市会場)

1. 参加者内訳 (アンケート回答数66名、重複回答あり)

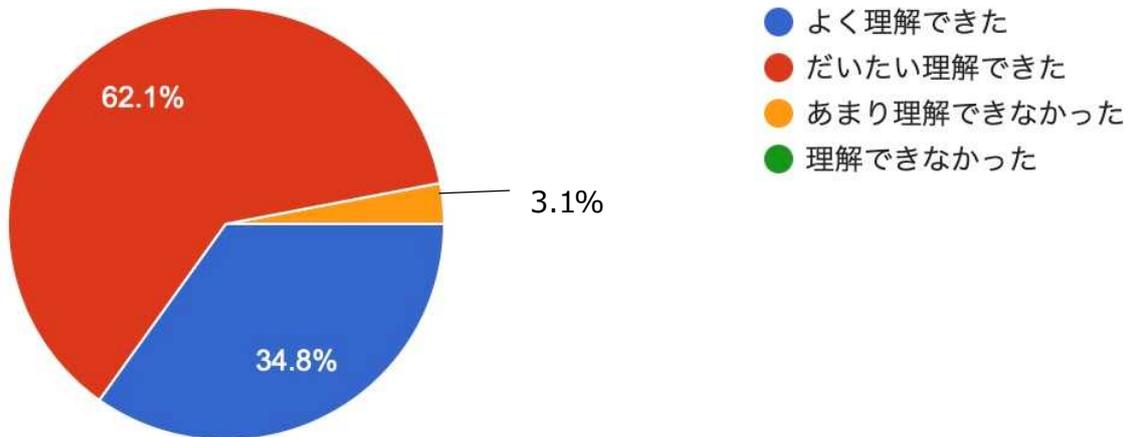


2. 本日の研修会に参加して、もっとも近いもの

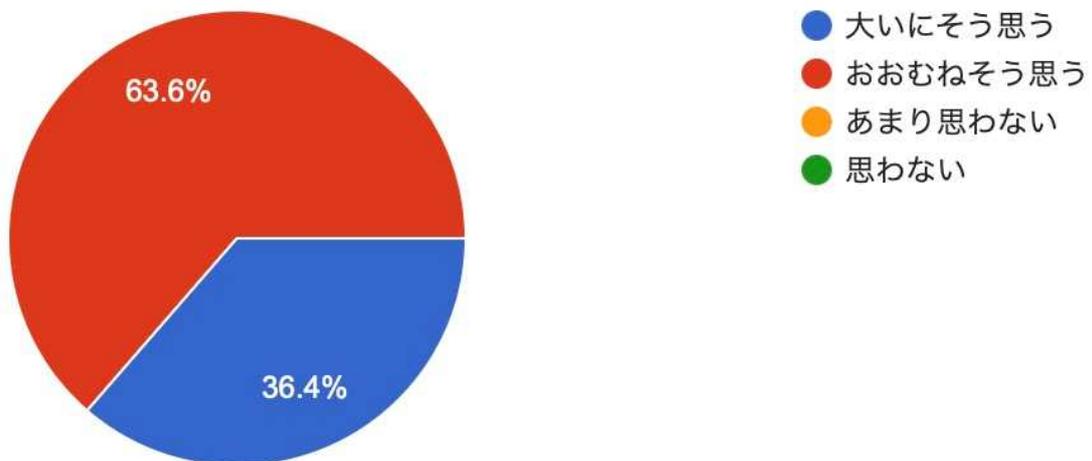
(1) 学校運営協議会制度について理解できた。



(2) 地域学校協働活動、地域学校協働本部について理解できた。



(3) 講演等を聞いて、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一層推進しようと思う。



3. 感想やメッセージ (抜粋)

【実践発表】

和歌山市立加太中学校 校長 神崎 信彦 氏

紀の川市立田中小学校 校長 宮本 美保 氏

- ・地域、学校の課題を明確にし、コーディネーターを中心にした取組等、参考になりました。ありがとうございました。
- ・小規模特認校について、理想や理念は大体知っていました。しかし、実際にどのような児童生徒が希望するのか、また何ができるのかについては未知数であります。動向を見守っていきたいと思います。加太さんは、地域の活性化、一小一中一幼と一貫教育の充実、交通の便の良さなど、さまざまな要因が重なり、実施となったと思いますし、地域との一体化がうらやましかったです。田中小学校さんは、地域と学校とのパイプ役の存在がいかに大切かということがよく分かりました。
- ・どちらの学校も地域と一体となっている様子で良かったと思います。コーディネーターの役割が重要であるなと思いました。
- ・加太中学校の実践発表、田中小学校の取組もよく分かりました。地域に根ざしたコミュニティ・スクールの良さがよりよく発揮されるように、学校はこれからも取組を続けていきたいと思いました。
- ・加太地区という特色を色々生かして、子供達が地域の中で育まれていく姿を聞くことができ良かった。田中小学校の取組では、コーディネーターの力のありがたさを感じました。
- ・加太中学校は校区の特徴や地域に伝わってきている文化の中に、子供達が入り込んで活動する中で、地域の方達とのつながりを深め、地域への愛着を深めていることがよく分かった。田中小学校では地域と子供達を結ぶ工夫を、地域と協力しながら取り組まれていることがよく分かりました。
- ・具体的な取組について聞かせていただいたのでよかった。それぞれの学校の課題に応じて取り組む必要があるのだと再認識できた。
- ・加太中学校の発表は、地域の自然や伝統文化を生かした特色のある取組だと思いました。地域の魅力を全面に出して、学校と地域のうまく行っている取組だと感じました。紀の川市田中小学校の取組は、社会教育指導員のサポートを得ながらも、できることからの取組の考え方、参加しやすい取組の考え方が参考になりました。

- ・見守り活動する人も高齢になり、人員が少なくなってきた。1人でも多く参加していただけるよう自治会にお願いしている。
- ・地域の交流の例が沢山あり、良かった。
- ・コロナ禍の中で「地域とともにある学校」を目指したくてもなかなか厳しい状況があるが、全てを中止にするのではなく、地域も一緒にという思いの中、なんとか1つだけでも行いたい、違った形でも行いたいと思って行ってきた。早くコロナの終息を望むばかりである。学校運営協議会をますます動ける様にできると思う。
- ・各校（地区）の地域を取り込んだ活動、参考になりました。もっと地域が学校に関われるようになればと思う。
- ・加太のような小さな、そして地域に特色ある学校は思いが直結できている様子だった。2例目、社会教育指導員さんの存在が大きいかな？でも、“程度”に目をつぶれば、うちの学校でも、ぼちぼちできているかなあ？
- ・地域に密着した心強い活動をされていると思った。思ったこと、感じたことは、地域より出席させていただきましたが、どの様な方がとかが見えない、私の様な人が出ているのかとも思いました。
- ・少人数での加太中学校での取組は、学校教師の原点のような取組ですね。初任で、誰もが赴任すれば学ぶべきことがあると思います。
- ・両校の実践発表をお聞きして、本校でも取り組みたい内容もありました。早速、次回の学校運営協議会で委員の方々と協議したいと思います。「できるときに」「負担にならないように」から始めていきたいと思います。
- ・きのくにコミュニティスクイールとして行った取り組みがよく分かった。コミュニティ・スクールを行う意味がよく分かった。
- ・両発表校での抱えている課題等、少しずつでも前向きに取り組み、子供達への安心・安全とつながっていく様子がよく分かりました。
- ・「夏休み公民館フェア」の取組が参考になりました。挑戦してみたいです。
- ・見守り隊の成立について参考になった。社会教育指導員の働きが大きく、どの地域にも存在するのだろうか。

- ・ 具体的なものを見せていただいたので、コミスクの活動が分かりやすかったです。
- ・ 規模の違いはあれ、地域とのつながりが大切ですね。
- ・ 自分の時の小学校も近々統合となり、小規模であるということを生かした取組はとても参考になりました。
- ・ 学校と地域をつなげるコーディネーターの役割は一人ではなし得ない。校長と地域のコーディネーターがどう力を合わせられるかがポイント。
- ・ 加太中学校、田中小学校ともに特色ある取組をされていて、すばらしいと感じました。「地域とともにある学校」簡単な言葉ですが、実践は難しい。今日、教えていただいた実践を本校でも取り組んでいきたいと考えています。
- ・ 加太小中が小規模特認校の導入にあたり、見学者が来ているとのこと。来年以降の結果を知りたい。知らない地域の学校に行き、安心して勉強できる子供が増えればいいと思う。
- ・ 各学校の特色や課題に則した取組例をご紹介いただき、参考になりました。時間的に難しかったと思いますが、取組の成果や課題についても教えていただきたく思いました。
- ・ それぞれの学校の特色ある取組が大変参考になりました。初めの課長の挨拶の中にありました自分の学校・地域に合ったコミスクを感じました。
- ・ 地域に根ざした実践、そして協力していただいた方の熱心な行動に強く感銘しました。できることから、少しずつしていくことができると感じました。
- ・ コロナ禍の中、「地域とともにある学校をめざして」は、沢山の取組を紹介され、参考にしたいことが沢山ありました。人、地域とのつながりをし、よりよい町づくりをしているのがすばらしい。
- ・ それぞれ特色のある実践を発表いただきました。ありがとうございました。
- ・ 加太中学校、田中小学校の実践発表を伺い、本校の運営協議会の参考になることが、多くありました。加太中学校には、地域とふれあう場がたくさ

んありました。また、田中小学校の見守り隊を参考に地域の方々のライフスタイルに合った協力を検討します。

- ・子供達が地域とつながり、交流の機会を持つことの重要性を感じた。学校の課題を地域の方々とともに解決できればと思った。
- ・加太中の発表は、とても素晴らしいものだったと思います。ただ、それぞれの活動は、どの教科として取り組まれているのかなど、少々疑問に思いました。中学校ではそれだけでなく授業時間数が足りないかと思うのですが。田中小の発表は、地域と連携したとても良い取組みだと思います。
- ・他校の実践を聞かせていただくと励みになります。本校でも取り入れられる内容もあり、参考になりました。
- ・総合的な感想 今回の研修会では、学校の教職員以外の参加の人がとても多かったのがとても良かったです。やはり、そのことがコミュニティ・スクールをより広げていくには、一番重要であると思います。学校現場は、様々な課題が山積し、これ以上の負担が増えないような形でコミュニティ・スクールが進むことを望みます。
- ・実践発表の活動を知り、コミュニティ・スクールに取り組んでいく意欲を持たた。
- ・両小中学校の活動や学校運営協議会の働きなどよく分かりました。参考になることも多々ありましたので、本校においても取り込んでいきたいと思いました。

【ラウンド1】

ブースA 和歌山県CSマイスター 伊藤 松枝 氏

- ・図書ボランティアとして学校に入って行った経験から見えてきた学校の課題、地域とともにある学校として、子供の幸せのためにどうしていけば良いのか考えさせられました。
- ・well-being 持続可能な幸福について、よく分かりました。また、子育てについて絵本や読み聞かせを通じて大切なことを教えてもらいました。大人の学び直しのポイントもあり、常に問い続ける事等。

- ・地域学校協働活動の色々な形を知ることができた。地域学校協働活動と学校運営協議会制度の違いがあまりないように感じた。活動事例を紹介いただき、参考になりました。
- ・失敗しながら取り組んでいこうと思います。
- ・とっても分かりやすい話でした。資料ほしかった。
- ・読み聞かせボランティアとして学校へ入るはじめてのしんどさを、今どう学校を変えていきたいという願いがよく分かった。非常に丁寧に説明をしていただきました。大変よく分かりました。
- ・学校にある壁の高さへの思いや、昔話に込められた昔の人の知恵や戒めへの思いがすごく感じられました。
- ・読み聞かせボランティア。私はどんどん地域や保護者の方に入ってきて、子供達と関わり合って、人と人の関わりを増やしたいと思います。AIに頼る時代が進む中、人との温もりが大切だと思います。それは、教員だけでは達成できません。受け入れられない時代があったことに驚きましたが、「初め」はやっぱりあるものなんだと思いました。
- ・図書ボランティアとして1人でも多く、読み聞かせしたいと思う。
- ・図書ボランティアをしていて、すごく良いお話を聞けました。楽しい講習を受けれて良かったです。

ブースB 和歌山県CSマイスター 上田 さとみ 氏

- ・家庭教育支援チームのお話で、15年通い続けてようやく職を見つけたというエピソードが印象に残りました。
- ・湯浅町の訪問方家庭教育支援事業は、地域全体で子供を育てるという姿勢が表れていて、子育て不安の解消につながると感じました。
- ・今日のお話はとても参考になりました。自身の自治体で同じ事業を行っているのかどうかを知らなかった自分が恥ずかしくなりました。家庭教育支援の大切さを改めて感じることができました。ありがとうございました。
- ・家庭教育支援チームの地道な活動、熱意ある活動がすばらしい実践を築き上げるのだと感じました。

- ・学校との協働で対等な立場で働くことができる中、心配もあるが少しずつ協議していきたいと感じました。

ブースC 和歌山県CSマイスター 上羽 寛 氏

- ・公民館活動であれだけ多くの活動をしていることがすごいと思いました。
- ・公民館が子育てに大きく関わっているシステム。素晴らしいです。
- ・上羽氏の話伺い、上富田町では公民館が主体となり、地域の子供達の活動の場を設けていることが分かりました。現代の子供達は、異年齢集団で活動をし、遊ぶ機会がほとんどないので、上富田町のように大人が積極的に作らないといけないと思いました。
- ・寺子屋の取組に感心いたしました。私達もどうすればできるのか、考えてみます。
- ・公民館活動と学校が一体となり、子供達に寺子屋活動など、取り組んでおられるのがとても良かったと思いました。通学合宿で2泊3日して、お風呂を地域の老夫婦宅へ行くというのが、地域の老人会の方々等連携できていて、素晴らしいと思いました。
- ・色々な活動をされている公民館に対して本当にうらやましく思いました。私の地域ではサークルと学級の活動で、ほとんどの日数を占められて、他の活動が使用しようにもできなくなっているのも、もっと多様性の持った使い方の公民館であつたらと思う。
- ・非常に沢山の取組をされていてびっくりしました。これらの取組で人と人がつながることの大切さが感じられました。コロナ禍でも活動を止めないようにしたいですね。みんながこれらの活動を願っていると思いました。また、ボランティアのつながりを切らないように！リーダーを育てることの大切さも感じました。

ブースD 和歌山県CSマイスター 岡本 公博 氏

- ・岡本先生のお話で、自分の置かれた立場を再認識させていただきました。

- ・ 共育コミュニティからコミュニティ・スクールへの流れや、それぞれの役割など、またコーディネーターの役割、人選などポイントになることがよく分かりました。ありがとうございました。
- ・ コーディネーターの探し方が大変参考になりました。
- ・ 活性化をさせるための良き参考になりました。学校からの発信も地域の人材活用の重要な起点になると思いました。
- ・ 共育コミュニティが始まり、コミュニティ・スクールとの関わり、つながりについて、丁寧に説明いただき、よく分かりました。ありがとうございました。
- ・ 共育コミュニティについてお話を聞くことができ良かった。共育コミュニティとコミスクをどのように生かしていくのか難しいと感じている。
- ・ 共育コミュニティとコミスクの違いがよくわかりました。
- ・ いろんなヒントがあり、これから検討の中で使えると感じた。
- ・ なぜコミスクが必要なのか。共育コミュニティを補完する。地域から学校へ、学校から地域へのそれぞれの要望を洗い出し、それを補完し、つなげていくのがコミスクであるということが理解できました。
- ・ 大まかなコミスクの構造がわかったので、非常にためになりました。ありがとうございました。
- ・ 共育コミュニティとコミュニティ・スクールの違いについて疑問を持っていました。岡本先生に平成 20 年度の立ち上げから教えていただきよく分かりました。ありがとうございました。
- ・ コーディネーターを選ぶ人材が続かない。今は良いが先が見えない。コミュニティ・スクール、学校運営協議会が評価委員会と考えている人が多い。もっとコミスクの研修を多くの委員さんに受けてほしい。
- ・ コミスクと共育コミュニティの使い方等の役割が分かり、良かった。
- ・ これまでの「共育コミュニティ」と「コミュニティ・スクール」について、分かりやすくご説明いただきました。学校の現状を振り返りながらお話を拝聴し、具体的にイメージしやすかったです。

- ・ 共育コミュニティ、コミュニティ・スクールの誕生の経緯や違いは理解できた。学校運営協議会をゼロから立ち上げるのは大変だと思います。
- ・ これまでの共育コミュニティ（概要）とコミスクの今後についての説明があった。やはりコーディネーターの人選が課題である。
- ・ 岡本先生のお話から、共育コミュニティから地域学校協働本部など、どのような流れで県として取り組んできたのか、よく分かりました。また、質疑応答も会の最後に聞くことができ、勉強になりました。

【ラウンド2】

ブースA 和歌山県CSマイスター 大浦 俊一 氏

- ・ コミュニティ・スクールの活動に、公民館活動を利用して良い方法だと思う。
- ・ 竹灯籠、素敵な活動でした。
- ・ かつらぎ町妙寺公民館の活動と、それに子供達がどのように関わり、地域と結びついていくかがよく分かりました。ありがとうございました。
- ・ 子供と地域が一体となった活動。あくまで子供が主役で地域がサポート、出過ぎない事。
- ・ 公民館と小中学校とのつながりを持って、各生徒達に自主性を訴えたことが非常に良かったし、参考になりました。
- ・ コミュニティ・スクールとは違うと感じた。公民館活動の説明と感じた。

ブースB 和歌山県CSマイスター 大谷 裕美子 氏

- ・ まだまだ学校運営協議会で熟議して、ビジョンを共有して、一緒にアクションをとるところまではいっていない。校長を中心に決めたことを行い、それらを共有するところまでとなっている。意見や課題を話すか、聞いてくれるだけのようである。中にはすぐ教育委員会に働きかけてくださる方もいます。一緒に役割分担をしてもらえるように伝えていきたい。チームとして動きたい。改善点が多い。コロナ禍も問題。

- ・「学校ができることは学校で、地域でできることは地域で」というのは、改めてその中での連携の基本として、確信しました。コミュニティ・スクールの自転車の図がよく分かりました。また、資料の中の「目標達成 CS マンダラシート」も良いと思いました。活用していけたら良いと思いました。
- ・実践例を通して、分かりやすく説明してくれたので良かったです。
- ・エプロン先生を活用してみたい。
- ・学校運営協議会の運営メンバーについて考えようと思う。部会も良いと思う。
- ・中学校での取組の参考例があって良かった。
- ・大谷先生は、先生方全員と時間を作り、委員さん方と話し合うのがいいと言われたが実現できるのだろうか。理想なのかな。
- ・コミュニティ・スクールの理解が深まりました。主体的に、計画的に今後、運営協議会を運営していきたいと感じました。
- ・管理職以外の教職員と地域の方々をつなげることで、協働活動の幅が広がると思った。コミュニティ・スクールのあり方について、よく理解できました。協議会運営の事例紹介が参考になりました。
- ・コミスクの活用の仕方や学校との協働性など参考になることが多かった。
- ・できることから少しずつ取り組んでいきます。
- ・大谷マイスターからは、CS は自転車で例を挙げていただきよく分かりました。最終は校長がハンドルとブレーキをかけることが大切であると教わった。
- ・大谷裕美子さんの講話大変良かったです。また、お話聞く機会があれば嬉しいです。
- ・限られた時間の中で、分かりやすく説明くださいました。もっと詳しく聞ける時間が必要でした。熟議のコツが参考になりました。
- ・Q&A でのワークショップで行う熟議のお話は、大変参考になりました。
- ・マンダラートを委員の役割分担に生かすアイデアは参考になりました。

- ・コミュニティ・スクールはGO→LET'Sであることや自転車に例えると分かりやすいことが参考になりました。また、取組の具体例もありがとうございました。
- ・コミュニティ・スクールの運営について、教えていただき大変勉強になりました。目標達成マンダラシートは個人的にとっても興味を持ちました。

ブースC 和歌山県CSマイスター 下田 喜久恵 氏

- ・CSの具体的な運営方法が分かりました。ありがとうございました。
- ・宮原小の取り組みは先進的で素晴らしいです。ただ学校の負担軽減との兼ね合いについてどうしていくのが難しいところだと思います。
- ・もう少し時間に余裕が欲しかった。学校運営協議会を活性化するコツを教えてください良かった。
- ・話し合ったことで、学校での課題が少し分かった気がしました。
- ・学校運営協議会の運営について、自分達の校区が遅れていることに気づきました。
- ・運営協議会も参加させていただいていて、うちの運営協議会は全く機能していないのではないかと思うほどでした。
- ・他の地域の方と交流できたので良かった。
- ・学校運営協議会の活性化のための工夫やアイデアを今後の参考にさせていただきたいです。
- ・ワークショップ形式で、少人数グループで協議したのが話しやすく良かったです。時間が足りなくて残念でしたが、他校の様子を知り、学校を見直す好機にできました。
- ・協議会を行う際、ホワイトボードを使って協議内容をまとめ、学校の職員に周知するなど、ノウハウの部分を教わることができました。学校運営協議会の意味など、もっとお伺いしたかったです。

- ・運営協議会を活性化させるための考え方、具体策等を聞かせていただくだけでなく、自校の状況に合わせて取組を考える機会を与えていただき、とても有意義でした。
- ・大変分かりやすく説明していただき、またグループワークできて、交流ができ良かったです。
- ・実践交流の時間をもっとほしかった。
- ・活性化をさせるための良き参考になりました。学校からの発信も地域の人材活用の重要な起点になると思いました。

ブースD 和歌山県CSマイスター 森 博司 氏

- ・共育コミュニティからCSへの移行がとてもスムーズに進んだようです。大規模校であっても、やるべきことは同じです。コーディネーターの役割は大きいと思います。OKではなく、Let's
- ・それぞれの課題を見出し、それを皆で解決する方法を考える。人口が少なくなると、学校がなくなる場合もあるが、それでもどう地域が関わっていくか、皆で考えて良い知恵を見出したい。
- ・コミュニティ・スクールは人づくりの活動というところで、すごく共感しました。「育てる」ではなく、それぞれの立場のものが「育つ」ものでありたいと思いました。また、柳井市のスクール・コミュニティの考え方も素敵だと思いました。

【総合的なご意見】

- ・小中高特とコミュニティ・スクールの意味合いが違うと思うので、校種別の分科会や情報交換の場があると良いと思いました。
- ・高校に特化した研修会を希望します。
- ・今回の研修会の形式は良かった。グループ協議はなくても良い。
- ・やっぱり、社会教育指導員、コーディネーターさんは、必要だなあ。管理職のみが悪戦苦闘しては、限度があるかな…。